

令和6年第11回 吉田町教育委員会

-
- | | | | | | |
|---|--------------|---------------|--------|---------|-------|
| 1 | 開催期日 | 令和6年10月24日(木) | | | |
| | | 開会 午後 | 1時30分 | | |
| | | 閉会 午後 | 3時37分 | | |
| 2 | 場 所 | 吉田町役場 | 5階会議室2 | | |
| 3 | 出席委員 | 北澤 雅恵 | 増田 真也 | | |
| | | 中村 成宏 | 大石 佳彦 | | |
| 4 | 議場に出席した者の職氏名 | 教 育 長 | 山田 泰巳 | | |
| | | 学校教育課長 | 桑田 真男 | 生涯学習課長 | 山脇 一浩 |
| | | 学校教育課長補佐 | 岸端 準成 | 主席指導主事 | 水嶋 浩之 |
| | | 指 導 主 事 | 田中 久美 | 指 導 主 事 | 浅井 健 |
| | | 学校教育課統括 | 川本 貴浩 | | |
| 5 | 傍聴人数 | 0人 | | | |

次 第 (会議録概要)

-
- | | | |
|---|-----------------|-----------------------|
| 1 | 開 会 | |
| 2 | 教育長の報告 | 資料No. 1 |
| | (1) 報告事項 | 10月の教育委員会の行事 |
| | (2) | 町内教職員の状況 学校保健功労者表彰 ほか |
| | (3) | その他 教育移住ツアー ほか |
| 3 | 会議録署名委員の指名 | 大石委員 |
| 4 | 議 事 | |
| | (1) 報告事項 | |
| | ア 生徒指導について | 【非公開】 資料No. 2 |
| | イ 指定学校変更の許可について | 【非公開】 資料No. 2 |
| | ウ 児童生徒の区域外就学 | 【非公開】 資料No. 2 |

- エ 要保護準要保護就学援助費事務処理要領について 資料No. 3
- オ 吉田町特別支援教育就学奨励費事務取扱要領について 資料No. 4
- カ 吉田町立図書館の臨時休館について 資料No. 5

(2) 協議事項

ア 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（公表）について

・事務局説明

（委員からの質疑・意見）

- ・資料の3ページの経年比較は非常に重要になると思う。学力調査を小学6年生と中学3年生でやるということで、グラフを見ると面白いのが、小学校で平均を上回ったところ、6年生から中学3年になると、その小学校では平均を上回っていた子供たちが、なぜ平均以下に中学校でになってしまうのか。原因はいろいろ考えられると思うが、例えば優秀な子たちが島田附属や中高一貫校に行ってしまうからだという可能性もある。あるいは、中学に入ってからだんだん基礎的な部分に抜けがあると、当然そこから差が広がることもあるし、その辺りの分析というか、児童生徒にとっては自分の知らなかったこと、分からなかったことが分かるようになっていくというのが非常に重要で、あまり全国平均に対してどうこうというのは意味がないと思う。児童生徒一人一人にとっても、親御さんにとっても。そういうところが分かるような資料の方がいい。小学校を見ていて思うが、以前は読み聞かせボランティアに来てくれるお母さんがたくさんいて、最近はお子さんが小学校にいる親御さんがほとんどいないということになっていて、若い親はスマホを触って、あまり本も読まない世代になってきているので、そういう中でやっぱり基本は国語になるというのがこの資料から読み取れるので、その辺りをどうしていくのかというレポートになっていると非常にいい。
- ・受験は過去問とか対策をやれば、ある程度のことはできると思うが、その根本的なところ。11ページだと青色より黄色が目立っていて、気になるのは青の国語の内容が分かるのかというところが、中学校になると低くなるという点。やはり国語がマイナスになっているところをどうしていくのか以外では、黄色が多いところでは評価されていると思う。本人が一生学んでいくに当たって、そういう基本的な姿勢が身に付くのは中学や高校でいくらでも挽回が利くと思うので、そういうところでこういう結果が出たという、そこは評価してもいいと思う。

- ICTを入れてから正答率が下がっているという話があったが、他校も同じような比較をしている資料はないのか。⇒ 市町別に数値を公表しているところはそれほどない。静岡県や政令指定都市は数値を公表している。
- 県の学調の公表されたものは見ることができるか。⇒ 学力向上と検索すると、令和5年3月に出されたものが出ている。
- 全国学調の目的の中で、吉田町はイの学校の授業改善に役立てるといのが目標だと思うが、ここが毎年弱い部分というのがあるって、公表はいいが、昨年やった部分がどう改善の影響が出ているのかというのが見えない。それこそICTを前面に出している町なので、子供たちもこれを使いこなしたいという思いがあるが、確実に定着させたい学力というものができていないと思うので、この改善に向けてのところをもう少し具体的な協議がされて出されていると思う。
- 吉田町では学力向上委員会があり、それを主体として結果を分析している。これからの授業や資料等に活用しているということがもう少し伝わるようなものを書き加えてもらいたい。先生たちの働き方もそうだがICT活用をする上で利便性を早く見つけて、子供たちも先生たちも今後の活用に向向きになっているところをプラスにできるような結果を出してあげたい。家庭もそう。学校だけではなくて、家庭もどんな支援を欲しいのか。
- こういうところを伸ばしていきたい、こういうところはしっかりと改善していくというのがあるなら、そこをしっかりと前に出していいと思う。継続して何か見ているのか、結果を踏まえて学力向上委員会では1年を通して見ているのかなど出した方がいい。
- 最後のページでクロス集計を出してくれたのはありがたいが、分かりにくいと思う。当てはまる数値だけを取り上げたのでは駄目ではないか。⇒ このクロスの意味というのは、例えば当てはまるというふうに答えた人の正答率が、小学校の国語だと69.1だった。でも、どちらかという当てはまらないと答えた子というのは、正答率は非常に低くなる。裏を返せば、自ら取り組んでいると答える方が正答率は高い。だから、四つ示さないとそれが言えない。
- 保護者目線では、明日から取り組める課題の方がいい。例えば朝食を毎日食べているや読書している時間が長い方がいいなど。⇒ 「毎日同じぐらいの時間に起きていますか？」の設問で、「している」と回答した子が、若干だが比較的正答率が高くて、「全くしていない」という子供ほど平均正答率が低いということが小学校はなっている

が、中学校はばらついてしまった。

- ・見えてきた課題が分かりやすくあるといいと思う。今、家庭学習は自分で考えてという指導になったという話をしていたので、そういった面でテストの結果を見て、自分は何が足りなかったっていう一つの目安になるということをメッセージとして活用されればいいと思う。せっかく受けたテストなので、結果として家庭でもどうだったのかを見るのもいい。
- ・親が結果を見たところで、親がやるわけではないし、親がそれで平均以上になるように塾に行かせたところで、本人にやる気がなければどうしようもない。
- ・これはホームページに載せるのか。対象は、家庭を含めた町民一般と考えるのか。 ⇒ 保護者も含めて町民全般

5 その他

- ・教育委員報告（吉田町地域公共交通協議会：増田委員）
- ・校務用端末の入替えについて
- ・教育委員会視察研修について
- ・図書館用地の取得について
- ・今後の教育委員会等の予定について

6 閉 会